

1. 評価結果概要表

平成 21年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2071000141		
法人名	社会福祉法人駒ヶ根市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	駒ヶ根市 赤穂 福岡 14 - 722 (電話) 0265 - 81 - 7570		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】(21年 2月 14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤8人	非常勤3人 常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,100 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (2月 14日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	83 歳	最低	66 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋城医院 ・ 昭和伊南病院 ・ 駒ヶ根病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ほほえみの家」の施設は、西に木曽駒ヶ岳、東に甲斐駒ヶ岳が遠望できる駒ヶ根市の南端の平地に位置し、公園や学校、介護施設であるデイサービス・グループホームが隣接し合う場所に接しており、相互に交流・連携し合える地域環境の中にある。施設理念を簡潔にし「笑顔のある施設作り」を目標に、管理者と職員が常に意見交換をしながらタッグを組み、重度化した利用者笑顔を取り戻してもらおうと日々明るく、思いやりのある対応・介護に心がけられ、利用者さんと職員が気軽に冗談を言い合える明るい施設である。職員の向学心も高く、施設改善と介護の質の向上に反映されることが期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価でグループホームの特徴を活かした相談活動等の地域貢献が望まれており、運営推進会議で意見交換の場を利用し、改善に向けた取り組み方法を模索中であり、継続されることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に、自己評価の各項目に対する意見を書き出してもらい、これを集約して一覧表にし、その表を基にして、全体会議で検討された改善点、できている点の発見に努められ、改善に向けた取り組みがされつつある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	4ヶ月ごと定期的に運営推進会議が開催されているが、施設側からの状況説明が多く、施設運営、サービスの向上に向けた委員からの意見は少ない。今回の外部評価で意見交換できた、災害時の避難訓練の大切さを次回からの会議で、問題提起していくと共に参加委員の増加も含め、近隣住民の協力体制を確保する場として、協議の輪を広げていきたいとの意気込みが聞かれた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会の開催と自由な討議の場を設けるなど、意見・苦情の汲み上げに努められているが、施設運営の反映に向けた意見等があまり出てこないため、今後の課題として利用者・家族から、前向きな意見や希望が出される、働きかけを職員全員で検討し、気軽に意見交換が出来る機会作りに努められることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域開催の行事への参加、隣接する介護施設との交流の輪も徐々に広がりつつあり、施設の理念にも「身近な相談活動機能」として働きかけを広めたいとの意欲もあるので、施設の有する機能を地域への還元として介護教室・介護相談に努められると共に、利用者及び施設が地域住民に溶け込めるよう連携強化が図られることが望まれる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念に、「笑顔を絶やさず、感情豊かに」との理念を加え、職員と共に高齢化した利用者に笑顔を取り戻してもらおうと明るい施設作りに努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月々の全体会議や機会あるごとに職員全員で理念に沿った日々の介護に取り組むよう確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加、隣接する介護施設との交流に努められ、近隣住民の施設への立ち寄りに向けた声かけ等もされており、徐々に交流の輪も広がっている。		「身近な相談機能を広げたい」との理念実現から、施設の有する知識の地域への還元として、介護相談・介護教室等の開催に努められ、利用者の外出時の見守り体制作り、災害訓練への参加協力等、今以上の交流の輪が広がる努力をすることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価で各項目を職員全員で検討され、改善点を書き出し一覧表にして、出来ることから具体的に改善策を考え、実効に向けた取り組みがされつつある。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>4ヶ月に1回の運営推進会議の開催で、意見交換の場として活用されているが、施設からの状況説明が多く、施設運営改善に向けた意見提出までには至っていない。今後は施設側から積極的な課題を提出し、意見の提出依頼し、サービス向上に活かせるよう取り組み意欲が示された。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市保険課担当者・包括支援センター担当者とは、利用者へのサービスの質の向上のため、情報収集・相談に乗ってもらう等連携に努められている。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族会との定期的な会合・家族の面会・来訪時での情報交換や施設からの個別便り発送により、利用者の状況を連絡すると共に、金銭管理についても確認・報告がされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会開催時に家族だけで意見交換できる時間設定等をして、苦情・意見の汲み上げに努められているが、施設運営に関する意見等の提出までには至っていない。</p>		<p>意見箱の設置やあらゆる機会をとらえ、意見・苦情の汲み上げに努められ、職員全員で提出された意見等の検討をし、施設運営に反映して行く等、意思疎通の円滑な施設運営がなされるよう取り組まれることが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動等、職員の入れ替わりがある場合には、可能な限り事前に実習期間を確保し、安心してダメージを与えることの少ない関係づくりへの配慮がされるよう努められている。</p>		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修参加の他、職員個々の経験・資格取得に向けた研修への参加支援に向けて、勤務交替・旅費支給等の配慮がされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・相互評価研修会・施設の相互見学訪問等に参加・取り組みがされている他、新年度からは、管理者のみの参加であったグループホーム連絡会に、職員の参加による交流の場がもたれるよう計画が進められている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居利用開始前に見学、通い利用による試験入所により、利用者の戸惑いや不安を解消できるよう努められ、本人の生活状態等の把握、家族との話し合いも十分にされ、雰囲気になじむよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理の昔からの習慣や慣わしを聞きながら共に作業をし、持ちつ持たれつ、支え合う関係づくりをされ、支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族から施設での暮らしへの希望要望、日々の生活でしたいこと、趣味などをよく聞き、利用者の意向に沿った日々が送れる様支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより良い生活が送れるように、本人、家族から入所までの生活暦・身体状況・生活習慣などよく聞き取り、職員でのケア会議で意見アイデアを出し合い、よりよい介護計画の作成に当たられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回のケア会議で見直しのための検討をし、急な変化に対しても随時見直しをし、本人、家族、関係者と話し合い、現状に即した介護計画作成に努められている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>多機能性を持った施設運営に付いては、今後の課題として検討していきたい。</p>		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者個々の掛かり付け担当医師と、施設指定の契約病院双方について、本人や家族等の希望を大切にし、納得が得られる選択をしてもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末期への対応のあり方について、施設方針は、利用者家族の希望があれば最終までのケアが出来るよう職員で話し合いが出来ているが、管理者の交替等のため、利用者家族と契約当初からきちんとした話し合いが出来ているか不十分などところがある。		利用者の高齢化、重度化に伴い終末期への対応は重要な課題となってくるので、家族・掛かり付け医師等と繰り返し話し合いがされ、全員で方針を共有し、対応されることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	日々の介護のなかで、利用者のプライバシー、尊厳を損ねないよう職員全員で言葉掛けや応対に注意するよう確認しあっており、個人記録等の取り扱いについても注意がされている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	時間に縛られることなく、利用者一人ひとりのその日の生活への希望を把握し、自由に生活を楽しめるよう支援に努められている。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を聞き、買出しに出る等、食事準備でも手伝いの出来る人はともに食事準備をし、かたづけの手伝いも依頼し、職員も共に席につき、楽しみながらの食事がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日準備し利用者の希望により、ゆったりと入浴を楽しんでもらえる支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること出来ないことを把握し、手伝いごとへの声掛けや散歩への誘導等、気晴らしが出来よう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調に合わせ、買い物への誘い、近隣の公園への散歩等戸外へのお出かけ支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のチャイム、鈴の使用により利用者の出入りをチェックし、昼間は鍵をかけないケアに努められている。		

駒ヶ根市認知症高齢者グループホームほほえみの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>利用者の急変や事故発生、災害発生時のマニュアルの整備もされ、近隣住民の協力を得た避難訓練も繰り返し実施されている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分補給のチェック表もつけられており、栄養バランスについても栄養士によるチェックがされるよう配慮されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、カセット・テレビの音感・視覚への働きかけや、生け花・鉢植え等の生活感、季節感が味わえるよう居心地よく過ごせるよう工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者各人の居室は自分の趣味や好みに合わせた家具・装飾品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる居室作りがされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。